

平成27年4月1日、市役所で辞令交付式が行われました。辞令交付式には、新規採用職員のほか、昇任した職員が参加。その際の市長あいさつを紹介します。

先週末、誰も呼びに行っていないのに、市役所の軒先にツバメが飛んできてくれました。桜も、誰も教えていないのに満開になりました。自然は、そんな感じで動いています。

さて、新規採用職員のみなさん、ようこそ、長久手市役所を職場として選んでいただきました。また、昇任された方、異動された方に辞令を交付させていただきました。新たな気持ちで、仕事に取り組んでほしいと思います。



新規採用職員のみなさんはもちろんですが、ここに集まっている職員のみなさんは、試験を受けて役所に入りました。役所や会社には、同じような能力を持ち、同じような考えを持つ人が集められています。

市民には、試験がないので、実にさまざまな方々に住んでいただいています。さまざまな思いを持つ市民の方たちと一緒にまちをつくっていくのが、私たちの仕事です。今まで役所は、国や県の方向を向いて仕事をしていました。人口が増えていく時代は、山の頂上、1点の目標に向かって、早く正確に進んでいけばよかったけれど、これからの全国で人口が減っていく時代には、頂上からどこに向かって下りていくのが正解なのか、誰にも分かりません。国もどうしたらいいか、悩んでいます。

就任当初から私は、「失敗してもいい。遠回りしてもいい」と言っています。私の言葉が足らなかった点もありますが、この意味がなかなか伝わらず、職員のみなさんから「市長の言っていることは分からん」と随分と言われました。窓口のサービスなどは、当然のことながら、これまで通りに迅速に正確に行っていただくことは、もちろんお願いするところです。

でも、市民と一緒に考え、悩み、行うことは、遠回りしてでも、いろいろな人を巻き込み、職員も市民も一緒になって悩み、考えてほしいのです。自分達で考え、行動する力を身に付けることこそが、人口が減っていくこれからの社会に必要なことだと思うからです。

虐待の問題は、市役所だけが手を差し伸べるのでは防ぐことができません。近所のみなさんの協力が必要です。火災も市内で同時に3件以上発生した場合、市の消防署だけでは消火に対応できません。身近な問題として、高齢者の徘徊は、いつ起こるか

分かりません。市役所ができることは、情報をメールで流すことくらいです。いずれの課題も、市民と一緒に考えて、やっていく必要があることです。

市役所には、これからのまちづくりについて定めた第5次総合計画というものがあります。市役所にいる人たちは、みんな知っているけれど、肝心な市民は誰も知りません。これまでは、そうした仕事のやり方でした。でも、これからは、相談することが大切だと思います。例えば、妻が夫に対して、「あなたのスーツが古くなったから、そろそろ新調しましょう」と言ってくれたとき、既に夫が自分でスーツを買ってしまっていたとしたら、妻は「一言、言ってくればいいのか」ときっとケンカになります。相談することが大切なのです。

しかし、相談することは、実は、わずらわしいことです。長久手市は、快適度全国1位だそうです。でも、みなさんが実感する快適とは、「わずらわしいことがない」ことではないでしょうか。

「絆やつながりが大事」と言われています。いずれも震災で大変な思いをされた人たちの中から生まれたことです。絆もつながりも、わずらわしいことがないところには、生まれません。まちづくりも同じで、「わずらわしい」「難しい」「完成しない」というところから始まっていきます。

市民の方々と一緒に何かをしようと思っても、なかなか難しいところもあります。しかし、「だからやらない」ではなく、「やってみないと分からない」と、あえて挑戦してほしいのです。

新規採用職員のみなさんが、定年ちょっと前の年齢になる2050年は、きっと、そうした仕事のやり方が先端を行く時代になっているはずです。

新規採用職員の中には、民間経験がある方も何人かおられますが、私も民間出身です。私が市役所に来て、まず驚いたのは、毎月の返済がないということです。そして、自治体には倒産の心配がありません。民間では、1カ月に3日休みがあると、売上が1割減ります。月末の手形を落とすために、必死に稼ぐ必要があるので、効率と成果が求められます。一方で、自治体にはそうした苦労がありません。倒産の心配がない自治体だからこそ、みんなで考え、悩み、議論して、遠回りしてでも物事を進めることができるはずだと思うのです。

最後に、市民の方はもちろん、職員同士でも、「おはようございます」というあいさつだけでなく、「大丈夫?」「元気にやっていますか?」などのちょっとした声掛けをするようお願いをしました。ちょっとした声掛けが、若い職員にとっては、「私の事を見てくれている」「私はここに居ていいんだ」という安心感につながると思います。昇任をされたみなさんは、それぞれの部署で率先して取り組んで欲しいと思います。

幸せの4元素は、「必要とされること」「褒められること」「愛されること」「人の役

に立つこと」だと言われています。私は、ここに居ていいんだ、私は必要とされているんだという居場所と役割がある職場や長久手市にしていくことが、日本一の福祉のまちにつながっていくのです。

ぜひ、みなさんと一緒に、すばらしい長久手市を作っていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。